



向台

2月号

平成28年2月1日

中野区立向台小学校

社会とつながる、豊かな験から学ぶこと

副校長 松井 貴子

リオデジャネイロオリンピックへの切符を手に入れたサッカー日本代表のニュースで元気をもらった週末でした。また、女子マラソンの福土加代子選手の報道でも、努力し続けている選手と支えるコーチ陣の話を耳にし、もっと自分も頑張れることがあるという「やる気」が伝染してくる人も多かったことと思います。選手はもちろんサッカー場の応援席やマラソン大会の沿道で声援を送る人々の熱気に満ちた姿も実にいいものです。

また、昨日参拝した湯島天神等の神社には、資格試験や受験の合格祈願の絵馬が鈴なりで、夢に向かっての決心を誓った力強い言葉が書かれていました。その中に、応援する親や兄弟姉妹、先生方、関係部活等の先輩や後輩の温かな言葉もたくさんあり幸せな気持ちになりました。そこには、夢の実現に向かって挑戦する人とそれを支えたり応援したりする人との双方の生き生きとしたプラスのエネルギーが溢れ、いきかっているように感じたからです。

ところで、不登校の児童・生徒が増えているというニュースがありマイナスのエネルギーも流れているような事態もあり、社会的に問題となっています。そんな中、キャリア教育という視点から、これからの子供たちにどんな力をつけることが必要でしょうか。一人の親の願いとしては、しっかりと自分の仕事をもち、自信をもって粘り強く取り組める力をつけ、自立できるようにすることだと思っています。

さて、仕事とは、誰かのためにするものであると考えます。ですから学校では、「人のためになることをしたい」別の言い方をすると「社会貢献をしたい」という意識を育てています。もちろん全ての教育活動は将来につながっていますが、その中でも「直接的なキャリア教育」と「間接的なキャリア教育」に区別すると考えやすいと思っています。「直接的なキャリア教育」とは、自分の将来について考えたり、職業について調べたり、地域社会で体験したりする学習活動です。例えば、12月に6年生が卒業制作を物づくりのプロの東京土建の皆様からご指導いただきながら在校生や学校のためにレターボックスづくりをしました。2月には卒業生を招いてのホームカミングデーで、高学年の児童が中学校生活の話を直接聞く機会があります。一方、「間接的なキャリア教育」は、例えば係り活動や委員会活動です。仲間と励まし合い、互いの良さを認め合う中で責任感が芽生え、やり方を覚え更に一步工夫改善していく喜びを数多く経験させています。例えば1月には、世界に目を向け、ユニセフ募金活動を代表委員会が中心となって進めました。人に喜ばれる経験が利他的な意識を育てます。その心の根幹を築くのはやはり小学校時代からの経験や体験だと考えます。

多くの大人と会う体験をさせることも大切なキャリア教育です。保護者の皆様、地域の皆様には様々なかわりの中、豊かな体験活動にご協力いただきありがとうございます。継続は力なりといわれるように、積み上げていくことで効果的な学習が可能になるという視点も重要と捉え、より充実を図り発展させて、さらに確かな学力を支える基盤として教育活動も推進して参ります。是非とも、年1回でも2回でも構いませんので「読み聞かせ活動」に興味のある方や伝統文化の音楽活動指導にご協力いただける方がございましたらお知らせください。次年度は、放課後等により一層の力をいれて補充学習にも取り組みますので、学習サポーター等でもお力添えくださいますようによろしくお祈りいたします。

<お知らせ> 1月18日より3～6年生の少人数算数講師が安原由美子に変わり高柳誠先生にご指導いただいております。

学校事務は、1月から角田恵子さんから村井夕子さんに変わりました。